※令和４年度以降入学生用

学校番号	3028

令和５年度　教育文理科

教科	教育文理	科目	情報探究Ⅰ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	自主教材						
副教材等	自主教材						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・情報と情報技術を用いて、社会の問題を発見し、必要な情報と分析を行う。
・文系・理系を問わずに必要とされるデータサイエンスの入門を体験するために、データの分析、資料化を行う。
・コンピュータを使い、各科目の授業においても必要になるプレゼンテーション等のコンテンツの作成に必要な技術を主体的に学ぶ。
・データの分析や資料化などの作業の自動化を行う。

２　学習の到達目標

教育に携わるための探究の見方・考え方を働かせ、主体的に情報技術を活用する学習活動を通して、様々な課題を見出しながら、課題の解決をめざすための資質・能力を次のとおり育成することを目標とする。

（１）コンピュータ活用やデータの活用について理解を深め、技能を習得するとともに、情報技術と人や社会との関わり及びその変化について理解を深める。
（２）人や社会と情報の結び付きについて考察し、多面的な考え方で問題を発見し、よりよい社会の実現に向けた解決を提案する力を養う。
（３）情報と情報技術を活用し、心豊かな社会の創造に向けて主体的に参画する態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	コンピュータやデータの活用について理解を深め、技能を習得するとともに、情報技術と人や社会との関わりについて理解を深めている。	人や社会と情報の結び付きについて考察しており、よりよい社会の実現に向けて、多面的な考え方から発見した問題を情報と情報技術の効果的な活用によって解決案を提案している。	情報と情報技術を活用し、心豊かな社会の創造に向けて主体的に参画しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	データの活用実践	表計算ソフトウェアやプログラムなどでのデータの分析と文書処理ソフトウェアなどでのコンテンツ作成	a:データを分析するための手段を適切に活用してデータを整理し、数値が持つ意味を理解している。 b:テーマ・目的に応じて情報を収集し、ソフトウェアを用いて、文書の構成やレイアウト等の体裁を考え、読む人に数値に対する正しい解釈を伝えることができる。 c:データの分析を主体的に行い、自分なりに問題を明確化し、解決案を提案しようとしている。	提出課題	提出課題	観察 提出課題
2学期	プレゼンテーション実習	プレゼンテーションソフトウェアなどでのコンテンツ作成	a:プレゼンテーションの方法、スライドショーの作成方法について理解をしている。 b:テーマ・目的に応じて、プレゼンテーションソフトウェアなどを用いて、資料の展開やレイアウト等の体裁を考え、見る人に伝わりやすい資料を作成することができる。 c:資料の構成や編成について自ら進んで工夫し、教員の助言や相互評価に基づいて改善しようとしている。	提出課題	提出課題	発表 提出課題
	ソフトウェア実習	画像編集、動画編集ソフトウェアなどでのコンテンツ作成	a:画像、動画の撮影方法、画像処理・動画編集ソフトウェアの操作について理解をしている。 b:テーマ・目的に応じて、画像処理・動画編集ソフトウェアなどを用いて、画像や動画の構成やレイアウト等の体裁を考え、見る人に伝わりやすい画像や動画を作成することができる。 c:画像や動画などの構成や編成について自ら進んで伝わりやすさを工夫し、相互評価に基づいて改善しようとしている。	提出課題	提出課題	観察 提出課題
3学期	プログラミング実習	プログラムなどによる作業の自動化	a:プログラムなど記述・作成方法・利用方法について理解をしている。 b:自分の役割分担に応じて、適切な処理内容を考え、その作業を表計算ソフトウェア中のプログラムなどで自動化することができる。 c:プログラムなどを使った自動化について自ら進んで工夫し、教員の助言や相互評価に基づいて改善しようとしている。	提出課題	提出課題	観察 提出課題 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度